

しばた けんじ  
柴田 謙司

## 2022年の気になること

●NTT労働組合 中央本部  
・事務局長

昨年、新たに理事に就任した柴田です。微力ながら、労調協の運営に貢献できるよう、頑張ります。よろしくお願いたします。と宣言した以上、否が応でも、この「新年を語る」の原稿依頼にも応えなくてはなりません。もちろん、新年を語れるほどのジャーナリストではありませんので、その点、割り引いて読んで頂けると幸いです。原稿締め切りが迫る今日、国内2例目のオミクロン株感染者が発表されました。以前、専門家の方が「収束が見込まれ、日常が戻るのは2023年ではないか」と話していたことが改めて気になり始めています。新型コロナウイルスの感染者が格段に減り、経済活動も含めて日常生活を取り戻しつつある中、2022年に願うことは、「これ以上の感染拡大はやめて欲しい」その1点につきます。

さて、いつの時代にも、対立や摩擦、不和な状況は残念ながら存在しますが、より一層、そのことを際立たせるであろう中国の動向や態度を注視せざるを得ない状況が続くことになりそうです。「内政の問題である」と意に介さない台湾、香港、ウイグルへの圧力、人権問題、情報統制、軍事・経済・サイバーに関わる安全保障、脱炭素に向けた対応等、課題が多岐に渡ります。日本のみならず世界の各国にとって、中国との経済的結びつきが強いだけに、無視もできず、そして、日本は物理的に近くもあり、もどかしい局面がまだま

だ続きそうです。2月には北京で冬季オリンピックが開催されます。オリンピック憲章に照らして、今の中国の対応はどうか。結局、普通に閉会式を迎えて終わるのでしょうか。まもなく開催月を迎えますが、注目しておきたいと思います。

もう一つの注目は、働き方をめぐる論議の動向です。東京証券取引所は、現行の市場区分を再編し、この4月に証券市場を「プライム」「スタンダード」「グロース」といった区分に見直します。海外からの投資をより呼び込むことを目的にしているようですが、そのため企業価値を高めるため、働き手、働き方に対する要請が高まりそうです。内閣官房成長戦略会議に設置されていた有識者による企業組織の変革に関する研究会がまとめた『プライム市場時代の新しい企業組織の創出に向けて～生え抜き主義からダイバーシティ登用主義への変革～』では「日本企業は、旧き良き日本型経営に甘んじて、多様性や開放性、流動性を第一におかない人事評価システムで、競争力を失っているのではないかと問い、経営陣や管理職の改革のみならず、転職をすると損をする雇用慣行の改革として、退職金税制の在り方や解雇の金銭解決、ジョブ型雇用、労働時間に代わる新しい労務管理等を唱えています。その是非は述べませんが、岸田首相が標榜している「新しい資本主義」との関係で、政権・与党が、法改正を伴うものに



ついて、これらの提言をどう扱おうとするのか、注視しなければなりません。

また、連合と政治に関わる、方々での不和な状況が改善するのか、気になっています。「希望の党」の誕生による混乱、その時の衆議院議員選挙から、先と同選挙で「立憲民主党」が伸び悩んだことをもって、様々な課題が炙り出されたのではないのでしょうか。一周まわって元の鞘に収まるような気もしませんし、目の前に参議院議員選挙が迫っていますので、それまでに大きな変化があるようにも思えません。「民主党」「民進党」以前に戻るといっても正解なのかすら、わかりません。そんなことを勝手に言いながら、傍観しておこうと思います。

この点、決して、無責任で言っているのではありません。私自身、今年は労使間の課題、組織内部の課題に奔走し翻弄されるであろうことが容易に想像できるからですが。

自身の目下の課題は、組合員の労働条件の見直しです。経済産業者が『DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～』を2018年に発表し、さらに、新型コロナウイルスの感染拡大がデジタル化の必要性に対する意識を高めることになりました。私たちのような情報通信・情報サービスに関わる企業のみならず、今や、どの分野においても、IT人材が必要とされ

ています。また、前首相からの携帯料金値下げ要請については、多くの方が知るところですが、通信料で稼ぐだけでは難しい時代になりました。通信をベースとしたソリューションを提供するだけではなく、そのことを通じて、社会的課題の解決にもつなげていく必要があります。そのため、いわゆる「ジョブ型」とは異なるのですが、社員が自律的に専門性を高めることで処遇される人事・賃金制度に転換したいと、会社側から、制度見直しに関する提案がなされました。この課題と並行して、2022春闘、グループ企業の再編成に伴う労働条件課題に対応する1年となること間違いありません。本年は交渉と組織討議に集中します。

2022年を語るにあたって、何か面白いことでもないかと考えて、執筆にあたらうとしましたが、結果、硬い話題にしかありませんでした。最近、おぼろげながら、時間ができたら小旅行でもしたいなと思っていますが、こういうことが実現できれば、ちょっと柔らかめの文書が書けたでしょうか。1年後も同じ言い訳をしていそうです。

早くも来年に向けた原稿に不安を感じつつ、本年が皆様にとってよい年であることを祈念し、結びといたします。